

令和8年6月 記者会見

令和8年6月16日（火）11:00～

はじめに、今回の公立大学設立構想に対する本市の考え方について、公表までに時間を要したことを、この場をお借りいたしましてお詫び申し上げます。

本件につきましては、本市の将来に関わる重要な構想であり、多面的な角度から慎重な検討を行う必要があったことをご理解いただきたいと思います。

それでは、公立大学設立構想に対する本市の考え方について、ご説明申し上げます。

結論から申し上げますと、このたび、一般財団法人 立初教育財団から提案を受け、検討を進めてきた公立大学設立構想について、事業化を見送ることといたしました。

今回の構想は、若者の流出や人口減少が進む本市にとって、教育環境の充実や地域活性化の可能性を有する提案であり、今日に至るまで約1年半にわたり、実現可能性等について、検討を進めてきました。

このたびの検討において、公立大学の設立によって期待できる効果をはじめ、大学が有する役割等についても、改めて認識することができました。

しかしながら、建設資材や人件費の高騰等により、初期費用が当初の見込みを大幅に上回る水準となり、さらに国の助成金についても、当初の想定より上限額が低くなるなど前提が大きく変わりました。

これらにより、施設整備に対する市の負担額が大きく増加し、将来的な財政運営に過度な影響を及ぼす可能性があります。加えて、昨今の国際情勢の不安定化や人口減少、社会保障関係費の増加など、今後の財政運営は一層厳しさを

増すことが予測される中、未来への投資という意義を十分に考慮したとしても、新たな事業の実施には慎重な視点が求められます。

市の将来に責任を負う立場として、これらを総合的に検討した結果、今回の提案については、事業化を見送ることと判断いたしました。

財団の皆様には、『熊野の地で自らを見つめ、多様性と共生の知恵を身につける。こうした学びは、この地でこそかなう』との想いと熱意を持って、公立大学設立構想をご提案いただいたことに、深く敬意を表し、感謝の気持ちを申し上げます。

最後に、本検討にあたり、様々な形で関与いただきました皆様に感謝を申し上げますとともに、市民の皆様には、今回の判断に至った経緯をご理解いただきますようお願い申し上げます。